

石垣りん戦前発表作品一覧

竹中典子・西原大輔

List of Ishigaki Rin's Works 1935-1943

Noriko TAKENAKA, Daisuke NISHIHARA

はじめに

二十世紀の日本を代表する詩人の一人、石垣りん（一九二〇～二〇〇四）は、書誌が未整備の状態にある。『現代詩手帖特集版 石垣りん』（思潮社、二〇〇五年）には、「石垣りん自筆年譜」（二二〇―二二二頁）、および編集部編「石垣りん書誌」（二二三―二二四頁）が掲載されている。しかし、この「石垣りん書誌」は、単行本として刊行された四冊の詩集のほか、五冊の選詩集、四冊の散文集、一冊の編著について、その内容を簡略に記したものにすぎない。その他の書誌としては、畑夏希氏による「石垣りんの初期作品——『断層』『女子文苑』『少女画報』掲載作品をめぐって——」、『実践国文学』八十八号（二〇一五年、一〇〇―一二二頁、がある）。

本稿「石垣りん戦前発表作品一覧」は、畑夏希論文に依拠しつつ、その欠落を補い、誤りを訂正したものである。一九四五年八月十五日までの発表作品を調査対象とした。畑夏希氏が調査済の三雑誌『女子文苑』『断層』『少女画報』に加え、『蠅人形』『児童文学』『新女苑』に発表された作品も掲載している。以上六点の雑誌のほかに、石垣りんが投稿・発表した雑誌が存在する可能性もある。

判明している限りでは、石垣りんが発表した最も古い詩は、一九三五（昭和十）年六月一日発行『女子文苑』第九号に掲載された詩「春は」である。満年齢十五歳三か月、日本興業銀行で働きはじめてから、既に一年以上が経っていた。なお石垣りんは、戦前発表作品で、専ら「石垣りん子」の名前を使っている。本稿では、他の名前「青空美加」「石垣りん」が使用された場合は、必ず明記した。

初期作品の題材は、満四歳の時に亡くした母親すみ、恋愛、友情、戦争と、様々であるが、母親を題材にした作品が比較的多い。詩「呼び得ぬ言葉」「おかあさん」

「お母さま」「母」「雪」「母に捧ぐ」などからは、石垣りんにとって、母親への強い思いが確かめられる。

石垣りんの書誌は、今後しだいに充実してゆくだろう。南伊豆町立図書館には、石垣りん所蔵の資料が収められている。公立施設であるから、収蔵資料の詳細は、いづれ調査の上、発表されると思われる。ただ、石垣りんは戦災に遭っており、戦前の資料が南伊豆町立図書館に収蔵されている可能性は低いと推測される。戦前発表作品一覧が重要な所以である。

なお、本稿執筆にあたって、日本近代文学館および南伊豆町立図書館石垣りん文学記念室のご協力を賜った。記して感謝申し上げたい。

一、『女子文苑』（女子文苑社・新醒社）

『女子文苑』は、表紙記載の雑誌名が以下のように変遷している。出版社は第一号が新醒社、以降は女子文苑社である。

- ① 『女子文苑』（昭和九年八月一日―昭和十一年十一月一日）
- ② 『総合文藝雑誌 女子文苑』（昭和十二年一月一日―昭和十二年四月一日）
- ③ 『総合文藝誌 女子文苑』（昭和十二年五月一日―昭和十二年七月一日）
- ④ 『女子文苑』（昭和十二年八月一日―昭和十三年三月一日）
- ⑤ 『総合文藝術誌 女子文苑』（昭和十三年四月一日のみ）
- ⑥ 『総合文藝雑誌 女子文苑』（昭和十三年五月一日―昭和十三年十二月一日）

⑦『女子文苑』（昭和十四年一月一日―昭和十六年八月一日）

- 一九三五（昭和十）年六月一日 第九号 特集詩歌号
〔詩〕春は 二八頁 「石垣りす子」と誤記
〔童謡〕おぼろ月 二九―三〇頁
- 一九三五（昭和十）年七月一日 第十号 特集小品号
〔抒情詩〕路 三六―三七頁
- 一九三五（昭和十）年八月一日 第十一号
〔歌謡〕思出 三九頁
- 一九三五（昭和十）年九月一日 第十二号
〔童話〕さみちやんの見た夢 三七―三八頁
〔抒情詩〕あるころ 四六頁
〔童謡〕西洋館 五〇頁
- 一九三五（昭和十）年十月一日 第十三号 オール文苑号
〔抒情詩〕友情 三七頁
〔短歌〕（勤めせば） 四九頁 「石垣りん」の名前で掲載
〔俳句〕（水筒の） 五〇頁
- 一九三五（昭和十）年十一月一日 第十四号
〔歌謡〕片思ひなら 四〇頁
〔抒情詩〕運命 四三頁
〔俳句〕（真ひるまの） 六五頁
- 一九三五（昭和十）年十二月一日 第十五号
〔抒情詩〕或る日 二四頁
〔短歌〕（唯ならぬ） 七〇頁
- 一九三六（昭和十一）年一月一日 第三卷新年号 女流新人号
〔童話〕思ひ出 四七―四八頁
〔抒情詩〕人形 五五頁
〔戯曲〕義姉弟 七九―八一頁
- 一九三六（昭和十一）年二月一日 第三卷第二号
〔自由詩〕ベット 六二頁
- 〔抒情詩〕夕べの濱 六四頁
〔短歌〕（なになし） 六九頁
〔短歌〕（おちつかぬ） 六九頁
- 一九三六（昭和十一）年三月一日 第三卷第三号
〔抒情詩〕あなたと私 二七頁
〔抒情詩〕ころろ 二七―二八頁
〔歌謡〕うれしい頃 五〇頁
〔短歌〕（旧友に） 七〇頁
〔短歌〕（いつまでも） 七〇頁
- 一九三六（昭和十一）年四月一日 第三卷第四号 特集詩歌号
〔詩〕思ひ出 二五頁
〔歌謡〕恋の花 五三―五四頁
- 一九三六（昭和十一）年五月一日 第三卷第五号
〔歌謡〕娘十八 四八頁
〔短歌〕（妹の） 五四頁
〔短歌〕（霜どけの） 五四頁
〔童話〕金色の汽車 五九―六〇頁
〔抒情詩〕知る故に 九〇頁
- 一九三六（昭和十一）年六月一日 第三卷第六号 特集小品号
〔詩〕きんちやく草の花 二九頁
〔自由詩〕米をとぐ 四二頁
〔抒情詩〕呼び得ぬ言葉 五九頁
〔抒情詩〕のぞみ 五九頁
- 一九三六（昭和十一）年七月一日 第三卷第七号
〔抒情詩〕おかあさん 三一―三二頁
〔短歌〕（おんはくの） 七三頁
- 一九三六（昭和十一）年八月一日 第三卷第八号
〔歌謡〕ふたりである 四八頁
〔抒情詩〕お母さま 六八頁
〔童謡〕やぶにらみの子 七五頁
- 一九三六（昭和十一）年九月一日 第三卷第九号

〔抒情詩〕 爪 二五頁

〔短歌〕 (まづしさを) 六六頁

一九三六 (昭和十一) 年十月一日 第三卷第十号

〔抒情詩〕 赤い金魚 四三頁

〔断章〕 オリインピツク放送の或る夜 五九頁

〔歌謡〕 丘の上 六四頁

〔詩〕 西瓜 七〇頁

一九三六 (昭和十一) 年十一月一日 第三卷第十一号

〔断章〕 花街 四八―四九頁

一九三七 (昭和十二) 年一月一日 第四卷第一号

〔抒情詩〕 私は…… 四二頁

一九三七 (昭和十二) 年二月一日 第四卷第二号

〔童話〕 心の話 五二―五三頁

〔抒情詩〕 ひとみ 六五頁

一九三七 (昭和十二) 年三月一日 第四卷第三号

〔抒情詩〕 ゆふぐれ 六五頁 『断層』第二号掲載「ゆふぐれ」とは別作品

〔抒情詩〕 君と在れば 六〇頁

一九三七 (昭和十二) 年四月一日 第四卷第四号

〔童謡〕 冬の朝 六八―六九頁

一九三七 (昭和十二) 年五月一日 第四卷第五号

〔抒情詩〕 映画館 六七―六八頁 特集詩歌号

一九三七 (昭和十二) 年六月一日 第四卷第六号

〔小品〕 星に寄せて 二九―三〇頁

〔自由詩〕 働く 三五頁

〔童謡〕 ぎんなん 四二頁

一九三七 (昭和十二) 年七月一日 第四卷第七号

〔抒情詩〕 壺 四六―四七頁

一九三七 (昭和十二) 年七月一日 第四卷第七号

〔童話〕 地図 四六―四七頁

一九三七 (昭和十二) 年八月一日 第四卷第八号 満三周年記念号

〔詩〕 夜 一五頁

〔短歌〕 (鉄筋の) 五〇頁

一九三七 (昭和十二) 年九月一日 第四卷第九号

〔童謡〕 春の晝 七〇頁

〔自由詩〕 うた 三七頁

〔抒情詩〕 遠い渚 四一―四二頁

〔断章〕 小さな地球 四六―四七頁

一九三七 (昭和十二) 年十月一日 第四卷第十号

〔短歌〕 (たのむもの) 四八頁

〔童謡〕 匂ひ 五一―五二頁

一九三七 (昭和十二) 年十一月一日 第四卷第十一号

〔自由詩〕 生きてゐる街 三八頁

〔抒情詩〕 ゆふぐれの部屋 四四―四五頁

〔童話〕 風鈴 五一―五二頁

一九三七 (昭和十二) 年十二月一日 第四卷第十二号

〔抒情詩〕 朝の言葉 三八頁

〔童謡〕 煙草盆 四六頁

〔断章〕 編み物 四八頁

〔自由詩〕 屋上 五四頁

〔俳句〕 (秋風や) 六三頁

一九三八 (昭和十三) 年一月一日 第五卷第一号

〔自由詩〕 銀行 四六頁

〔童話〕 英坊の日記 六一―六二頁

一九三八 (昭和十三) 年二月一日 第五卷第二号 特集詩歌号

〔抒情詩〕 黒髪 二九頁

一九三八 (昭和十三) 年三月一日 第五卷第三号

〔断章〕 母 五八頁

一九三八 (昭和十三) 年四月一日 第五卷第四号

〔抒情詩〕 指 二六頁

〔自由詩〕 給仕 二七頁

〔小品〕 やぶ入り 五九―六〇頁

- 一九三八（昭和十三）年五月一日 第五卷第五号
- 〔自由詩〕唇 一九頁 『女子文苑』第五卷第七号掲載「唇」とは別作 品
- 〔抒情詩〕唇 六〇頁 『女子文苑』第五卷第七号掲載「唇」とは別作品
- 〔抒情詩〕浴場 六〇頁
- 〔俳句〕（ほのかにも） 七二頁
- 〔俳句〕（春愁の） 七三頁
- 〔俳句〕（春愁や） 七三頁
- 〔俳句〕（庭石に） 七三頁
- 一九三八（昭和十三）年六月一日 第五卷第六号
- 〔自由詩〕肉體 一六頁
- 〔短篇〕勘定取り 一九―二〇頁
- 〔童謡〕雪 三五―三六頁
- 〔小曲〕夜 五七頁
- 一九三八（昭和十三）年七月一日 第五卷第七号
- 〔自由詩〕希望 三九頁
- 〔自由詩〕唇 三九頁 『女子文苑』第五卷第五号掲載「唇」とは別作品
- 〔小曲〕なげき 四五頁
- 一九三八（昭和十三）年八月一日 第五卷第八号
- 〔短詩〕草 二二頁
- 〔詩〕貧しき団欒 三〇頁
- 一九三八（昭和十三）年九月一日 第五卷第九号
- 〔詩〕朝の言葉 二〇頁
- 一九三八（昭和十三）年十月一日 第五卷第十号
- 〔短詩〕生命の頌「ゆふやけ」 「噴水1」 「噴水2」 八頁
- 〔詩〕戦ひ 二八頁
- 〔短篇〕ひととき 三九―四〇頁
- 〔小曲〕ふるさと 五四頁
- 一九三八（昭和十三）年十一月一日 第五卷第十一号
- 〔詩〕母に捧ぐ 一八頁 『断層』第一号掲載「母に捧ぐ」と同作品
- 一九三八（昭和十三）年十二月一日 第五卷第十二号
- 〔短章〕生命頌（続） 「傘」 「秋」 二八頁

- 一九三九（昭和十四）年一月一日 第六卷第一号
- 〔詩〕樹木 二二―二三頁 『断層』第三号掲載「樹木」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年二月一日 第六卷第二号
- 〔短章〕生命頌（続） 「光」 「人」 「旻（あきのひ）」 「落日後」 「牡丹」 「花」 「蝶」 「井戸」 「山並」 「祈」 二八頁
- 一九三九（昭和十四）年三月一日 第六卷第三号
- 〔詩〕街のうた 二六頁 『断層』第五号掲載「街のうた」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年四月一日 第六卷第四号
- 〔詩〕潮音 二二頁 『断層』第六号掲載「潮音」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年五月一日 第六卷第五号
- 〔短文〕如来様 六一―六三頁
- 一九三九（昭和十四）年六月一日 第六卷第六号
- 〔詩〕墓碑銘 一六一―一七頁 『断層』第九号掲載「墓碑銘」と同作品
- 〔短詩〕桜花 二〇頁
- 〔短詩〕航路 二〇頁
- 一九三九（昭和十四）年七月一日 第六卷第七号
- 〔詩〕書庫断想 一五頁 『断層』第十号掲載「書庫断想」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年八月一日 第六卷第八号
- 〔詩〕花の晨 一二頁 『断層』第十一号掲載「花の晨」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年九月一日 第六卷第九号
- 〔詩〕我が家 二五頁 『断層』第十二号掲載「我が家」と同作品
- 〔評論〕文苑研究会窪川稲子先生よりお話を聴く 六七頁
- 一九三九（昭和十四）年十月一日 第六卷第十号
- 〔詩〕波間の唄 二〇頁 『断層』第十三号掲載「波間の唄」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年十一月一日 第六卷第十一号
- 〔詩〕帰り来る日―虚無圏は白き花野の柁かな― 二三頁 『断層』十四号掲載「帰り来る日―虚無圏は白き花野の柁かな―」と同作品
- 〔詩〕海 二三頁 『断層』第十四号掲載「海」と同作品
- 一九三九（昭和十四）年十二月一日 第六卷第十二号 「病院船」刊行記念号
- 〔短篇〕おれん 二二―二四頁
- 一九四〇（昭和十五）年三月一日 第七卷第三号 目次は第七卷第二号と誤

記

〔詩〕 雨の日の幻想 二八頁

〔詩〕 有名な葬列 二八頁

一九四〇（昭和十五年）年四月一日 第七卷第四号

〔詩〕 魚のことは 四四頁 『断層』第十九号掲載「魚のことは」と同作品

〔詩〕 靄 四四頁 『断層』第十九号掲載「靄」と同作品

〔評論〕 川路柳虹先生に詩のお話を聴く 五八―五九頁

一九四〇（昭和十五年）年五月一日 第七卷第五号

〔随筆〕 日本詩の夕 八五頁

一九四〇（昭和十五年）年六月一日 第七卷第六号

〔詩〕 六月の配置 二六頁

〔随筆〕 深尾須磨子先生に聴く 八四―八五頁

一九四〇（昭和十五年）年七月一日 第七卷第七号

〔詩〕 出発 三〇頁 『断層』第二十二号掲載「出発」と同作品

〔随筆〕 詩の研究その二 初学の詩作法 六九頁

一九四〇（昭和十五年）年八月一日 第七卷第八号

〔随筆〕 六月 文苑研究会記事―宮本百合子先生を囲んで― 会の記

六〇―六一頁

一九四〇（昭和十五年）年十月一日 第七卷第十号

〔詩〕 花の海 二四―二五頁

一九四一（昭和十六）年一月一日 第八卷第一号

〔創作〕 荷（女子文苑賞） 八一―八頁

一九四一（昭和十六）年二月一日 第八卷第二号

〔詩〕 座（断層同人作品） 四八―四九頁 『女子文苑』第八卷第七号掲載「座」とは別作品

一九四一（昭和十六）年五月一日 第八卷第五号

〔詩〕 子守唄 四三頁

一九四一（昭和十六）年七月一日 第八卷第七号

〔創作〕 葬列 一八―二二頁

〔詩〕 座 二八頁 『女子文苑』第八卷第二号掲載「座」とは別作品

一九四一（昭和十六）年八月一日 第八卷第八号

〔詩〕 花 一二頁 『少女画報』第二十七卷第八号掲載「花」とは別作品 『断層』第三十三号「花」とは別作品

二、『断層』（女子文苑社・文苑社）

出版社は、女子文苑（昭和十三年十一月一日―昭和十七年一月一日）から文苑社（昭和十七年二月一日―昭和十八年十月一日）へと変更された。表紙記載の雑誌名が、以下のように変遷している。

- ① 『女流詩誌 断層』（昭和十三年十一月一日―昭和十五年九月一日）
- ② 『断層』（昭和十五年十月一日―昭和十八年十月一日）

一九三八（昭和十三年）年十一月一日 第一号

〔詩〕 母に捧ぐ 二頁 『女子文苑』第五卷第十一号と同作品

〔短章〕 生命頌（「木陰」「雲」「風」「表札」） 八頁

〔エッセイ〕 同人語 一〇頁 「石層りん子」と誤記

一九三八（昭和十三年）年十二月一日 第二号

〔詩〕 ゆふぐれ 三頁 『女子文苑』第四卷第二号掲載「ゆふぐれ」とは別作品

〔短章〕 生命頌（続）（「傘」「秋」「峰」「銀河」「枯葉」「星」「手」「鏡」「水面」「点描」） 七―八頁

一九三九（昭和十四）年一月一日 第三号

〔詩〕 樹木 一―二頁 『女子文苑』第六卷第一号掲載「樹木」と同作品

一九三九（昭和十四）年二月一日 第四号

〔詩〕 姉妹 五頁

一九三九（昭和十四）年三月一日 第五号

〔詩〕 街のうた 三頁 『女子文苑』第六卷第二号掲載「街のうた」と同作品

〔短章〕 生命頌（続）（「大地」「雨」「人」「曇り日」「雪」「影」「運命」「就寝」「弓」「山」「境界」） 七―八頁

〔評論〕 森三那子論 一〇頁

一九三九（昭和十四）年四月一日 第六号

〔詩〕石垣りん子詩抄「鄙歌」 「影」 「舟歌」

〔短章〕「生命頌」「鼓動」「春めく」「弓」 一一二頁 『断層』第七号

掲載「石垣りん子詩抄」と同作品

〔詩〕潮音 七頁 『女子文苑』第六卷第四号掲載「潮音」と同作品

〔評論〕石垣りん子論 一〇頁

一九三九（昭和十四）年四月十日 第七号 臨時号

〔詩〕石垣りん子詩抄「鄙歌」 「影」 「舟歌」

〔短章〕「生命頌」「鼓動」「春めく」「弓」 一一二頁 『断層』六号掲載

「石垣りん子詩抄」と同作品

一九三九（昭和十四）年六月一日 第九号

〔詩〕墓碑銘 三十四頁 『女子文苑』第六卷第六号掲載「墓碑銘」と同作品

一九三九（昭和十四）年七月一日 第十号

〔詩〕書庫断想 四頁 『女子文苑』第六卷第七号掲載「書庫断層」と同作品

〔エッセイ〕らくがき 一〇頁

一九三九（昭和十四）年八月一日 第十一号

〔詩〕花の晨 三頁 『女子文苑』第六卷第八号掲載「花の晨」と同作品

〔評論〕井川サチ論 一〇頁

一九三九（昭和十四）年九月一日 第十二号

〔詩〕我が家 四頁 『女子文苑』第六卷第九号掲載「我が家」と同作品

一九三九（昭和十四）年十月一日 第十三号

〔詩〕波間の唄 五頁 『女子文苑』第六卷第十号掲載「波間の唄」と同作品

一九三九（昭和十四）年十一月一日 第十四号

〔詩〕帰り来る日―虚無圏は白き花野の枢かな― 八頁 『女子文苑』第六卷第

十一号掲載「帰り来る日―虚無圏は白き花野の枢かな―」と同作品

〔詩〕海 八頁 『女子文苑』第六卷第十一号掲載「海」と同作品

一九四〇（昭和十五）年三月一日 第十五号 新春号

〔詩〕水 五頁

〔詩〕灯 五頁 『断層』二十五号掲載「灯」とは別作品

〔詩〕霜夜に 五頁

一九四〇（昭和十五）年四月一日 第十九号

〔詩〕魚のことば 三頁 『女子文苑』第七卷第四号掲載「魚のことば」と同

作品

〔詩〕靄 三頁 『女子文苑』第七卷第四号掲載「靄」と同作品

〔評論〕三谷てる子氏へ 一〇頁

一九四〇（昭和十五）年五月一日 第二十号

〔詩〕行程 八頁

〔詩〕夜風 八頁

〔詩〕春のしらべ 八頁

〔評論〕逸見貞子氏への便り 一〇頁

一九四〇（昭和十五）年七月一日 第二十二号

〔詩〕出發 三頁 『女子文苑』第七卷第七号掲載「出發」と同作品

一九四〇（昭和十五）年八月一日 第二十三号

〔詩〕帰つてくる 四頁

一九四〇（昭和十五）年九月一日 第二十四号

〔詩〕花の午后 三頁

〔詩〕星座 三頁

一九四〇（昭和十五）年十月一日 第二十五号

〔詩〕水花の座 三頁

〔詩〕旅程 三頁

〔詩〕灯 三頁 『断層』第十五号掲載「灯」とは別作品

一九四〇（昭和十五）年十一月一日 第二十六号

〔詩〕体操の街（1・2・3） 七―八頁

一九四〇（昭和十五）年十二月一日 第二十七号

〔詩〕遠い日のために 九頁

一九四一（昭和十六）年一月一日 第二十八号

〔詩〕瀧 六頁

〔詩〕追想 六頁

一九四一（昭和十六）年二月一日 第二十九号

〔詩〕慣例 八頁

〔詩〕方位 八頁

一九四一（昭和十六）年三月一日 第三十号

〔詩〕帰途 一頁

〔詩〕風景 一頁

一九四一（昭和十六）年四月一日 第三十一号

〔詩〕和合 六頁

〔詩〕結合 六頁

〔詩〕空 六頁

〔編集後記〕同人語 一〇頁 署名R・Iと付記

一九四一（昭和十六）年六月一日 第三十三号

〔詩〕背 九頁

〔詩〕花 九頁 『女子文苑』第八卷第八号掲載「花」とは別作品

『少女画報』第二十七卷第八号「花」とは別作品

〔詩〕齡 九頁

一九四一（昭和十六）年七月一日 第三十四号

〔詩〕人間像 四頁

一九四一（昭和十六）年九月一日 第三十六号

〔詩〕蝶 一五頁

〔詩〕敵よ 一五頁

一九四一（昭和十六）年十一月一日 第三十七号

〔詩〕冰山 一七頁

〔詩〕章 一七頁

一九四一（昭和十六）年十二月一日 第三十八号

〔詩〕埴輪 一二頁

〔詩〕顔 一二頁 『断層』第四十一号掲載「顔」とは別作品

〔短篇〕空の童話 三二―三五頁

一九四二（昭和十七）年一月一日 第三十九号

〔詩〕（特集 日米開戦）凱旋門 六頁

一九四二（昭和十七）年二月一日 第四十号

〔詩〕爆破 二六頁

〔詩〕木の葉 二六頁

〔詩〕虹 二六頁 『断層』第四十四号掲載「虹」とは別作品

一九四二（昭和十七）年三月一日 第四十一号

〔詩〕顔 二二頁 『断層』第三十八号掲載「顔」とは別作品

一九四二（昭和十七）年四月一日 第四十二号

〔詩〕入城 七頁

〔詩〕希ひ 七頁

一九四二（昭和十七）年五月一日 第四十三号

〔詩〕（大東亜決戦女流詩集 望郷 七頁

「エッセイ」（今西きみえ姉を悼む）同人に代りて 七〇頁

一九四二（昭和十七）年六月一日 第四十四号

〔詩〕虹 二三頁 『断層』第四十号掲載「虹」とは別作品

〔詩〕落下傘 二三頁

一九四二（昭和十七）年七月一日 第四十五号

〔詩〕母の手 一四頁

一九四二（昭和十七）年八月一日 第四十六号

〔創作〕色眼鏡 二二―二九頁

〔評論〕「彼岸花」評 思ふままに 六二―六三頁

一九四二（昭和十七）年十月一日 第四十八号

〔詩〕契 標題紙に掲載

〔詩〕海女のうた 八頁

一九四二（昭和十七）年十一月一日 第四十九号

〔詩〕送別 一六頁

一九四二（昭和十七）年十二月一日 第五十号

〔詩〕空を仰ぐと 六頁

〔詩〕ふたりそろつて 六頁

〔詩〕碑銘 六頁

〔詩〕未知 六頁

〔短篇〕二つの帯留 三二―三三頁

一九四三（昭和十八）年二月一日 第五十一号

〔詩〕扉 一九頁

一九四三（昭和十八）年三月一日 第五十二号

〔詩〕手 一一頁

一九四三（昭和十八）年五月一日 第五十四号

〔創作〕幕張行 二―二二頁

〔詩〕地蔵尊 二六頁

〔詩〕悔 二六頁

一九四三（昭和十八）年六月二十五日 第五十五号

〔詩〕海を見る人 七頁

一九四三（昭和十八）年七月一日 第五十六号

〔詩〕短章 一〇頁

一九四三（昭和十八）年九月一日 第五十八号

〔詩〕短章 一〇頁

一九四三（昭和十八）年十月一日 第五十九号

〔詩〕短章 五頁

三、『蠟人形』（蠟人形社）

一九三六（昭和十一）年八月一日 八月号

〔短歌〕（何となく） 一〇〇頁

一九三七（昭和十二）年四月一日 四月号

〔童謡〕歌時計 一〇〇頁

一九三七（昭和十二）年六月一日 六月号

〔小曲〕遠やま 八八―八九頁

一九三七（昭和十二）年九月一日 九月号

〔小曲〕日記帳 八五頁

四、『少女画報』（新泉社・東京社）

出版社は、新泉社（第二十五卷・第二十六卷）から東京社（第二十七卷）に変更されている。

一九三六（昭和十一）年十一月一日 第二十五卷十二号

〔詩〕（選考外）ねえやより 二三七頁 「青空美加」の名前で掲載 題

名のみ掲載

〔詩〕秋の枯葉 二四四頁 「青空美加」の名前で掲載

一九三七（昭和十二）年一月一日 第二十六卷第一号

〔詩〕（選考外） 二七三頁 「青空美加」の名前で掲載 題名・本文なし

一九三七（昭和十二）年八月一日 第二十七卷第八号

〔詩〕花 二六一頁 「石垣りん子」の名前で掲載 『女子文苑』第八卷第八号

掲載「花」とは別作品 『断層』第三十三号掲載「花」とは別作品

五、『児童文学』（鳩居書房）

一九三六（昭和十一）年九月一日 第二卷第九号

〔童謡〕月の出 三〇―三二頁

一九三六（昭和十一）年十二月一日 第二卷第十二号

〔童謡〕すゝき 二九頁

六、『新女苑』（実業之日本社）

一九三七（昭和十二）年十二月一日 第一卷第十二号

〔詩〕村 三五五頁

一九三八（昭和十三）年二月一日 第二卷第二号

〔詩〕誕生 三五六頁